

特別養護老人ホームの

入所待機者解消に向けて

近年の高齢者人口の増加により、特別養護老人ホームの待機者は、平成26年度末には800人を超えると見込まれています。そこで市では、在宅介護の負担をできるだけ減らせるよう、第5期シルバープランでも引き続き待機者の改善に向けて、特別養護老人ホームの整備を進めます。

ただし、待機者の中には予約的に申し込みをしている方も含まれることから、より緊急性の高い待機者（要介護2以上のひとり暮らしの方や、高齢者夫婦のみの世帯の方）の人数を基に整備することとしました。

これにより、緊急性の高い待機者は26年度末で339人と推計され、第5期シルバープランの特別養護老人ホームの整備数は、現在建築中の70床を除いた270床としました。

■緊急性の高い待機者数(各年度3月31日の数値)(単位:人)

区 分	24年度	25年度	26年度
高齢者人口	38,782	41,106	43,481
要介護認定者数(要介護1～5)	4,143	4,375	4,619
待機者数	737	778	822
緊急性の高い待機者数	304	321	339

■介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)整備目標(単位:人)

第4期末 整備数	第5期事業計画				第5期末 整備数
	24年度	25年度	26年度	計	
568	0	140	130	270	838

市民、委員会の意見を尊重した計画づくり

有識者、自治会連合会や老人クラブ(いきいきクラブ)の代表者、そして市民からの公募委員を含むシルバープラン推進等委員会(岡田一芳会長)のメンバー28人によって、野田市の高齢者の暮らしと介護状況の実態を話し合いながら第5期シルバープラン策定へ一つ一つ積み上げてきました。



介護保険サービス利用者の実態調査や地区別説明会を開催するなど、地域の実態と方向性を探りました。また、広く市民から募集した市民公募委員からは、市民目線の貴重な意見が提案されました。



委員会では地区別説明会や「パブリック・コメント手続」で寄せられた市民の意見も踏まえながら、7回にわたり審議が行われました。



市民公募委員の生形之通さんに話を聞きました。

「第5期シルバープランは、第4期をさらに具体的に踏み込んで中身の濃いものになったと思います」。地域の自治会副会長として活動されてきた生形さんは、市の事業が地域の住民に周知されていない現状や、活用できていない公助を知り、市民の目線を自治体に伝え自分もさらに学びたいとの思いで市民公募委員に応募しました。「委員会のメンバーは皆さんよく勉強しているし、フットワークがいいと感じました」。自らも介護保険施設を見て回るなど事前準備をして会議に臨んできました。「目に見えて高齢化が進んでいきます。自助、共助、そして公助と、地域での高齢者のあり方をこれからも学んでいきたいと思っています」



シルバープラン推進等委員会
市民公募委員
うぶかた ゆきみち
生形 之通さん 70歳 岩名在住